

<p>a 学校教育目標</p>	<p>夢や目標に向かって、ともに伸びる子供の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】自分を愛し、夢を語る児童の実現 【ビジョン】児童、教職員、保護者が「夢や目標に向かって、自ら伸びる ともに伸びる」という教育風土がある学校 ＜めざす学校像＞「ともに伸びる」という教育風土のある学校 ＜めざす子ども像＞「規律あるかかわり合いを通して、自ら考えともに伸びようとする子ども」 ＜めざす教職員像＞「児童を守り、育て、育む」事を時間氏、実践できる教職員</p>
-----------------	------------------------------	------------------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期目標	e 目標達成のための具体的方策(大枠)	f 評価項目	指標	現在の状況(昨年度3学期末)		10月 h 達成 値	2月 h 達成 値	i 達成 度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価		m コメント	
					目標値	目標値							イ	ロ		ハ
学 力 向 上	【授業改善による学力定着】  教師が、その学年で身に付けるべき学力を確実に定着させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45分間の授業で、基礎基本の力を身に付けるための授業改善【研究部】</li> <li>・児童の主体的な学びにつながる「問い」のある授業改善【研究部】</li> <li>・学び方の選択肢と自己決定のある授業改善【研究部】</li> <li>・教科書の文章を「読む」ことができる授業改善【研究部】</li> <li>・単元テストから思考力・判断力が80%以下の単元のアンストシートを繰り返し行うことでの学力定着【研究部】</li> <li>・教材文等のごとくに根拠を求める授業改善【研究部】</li> <li>・「聞く」ことを大切に、ねらいを達成するためのペアやグループによる学習のある授業改善【研究部】</li> <li>・通過率40%未満の児童への具体的な対応がある授業改善【研究部】</li> <li>・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】</li> <li>【生徒指導・特別支援教育部】</li> <li>・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業改善【研究部】</li> </ul>	<p>単元末テスト(国語、算数、社会、理科)の平均値が指標に示す点を超える学級数</p> <p>【評価時期】(1学期末・2学期末)</p>	<p>平均値 1・2年生(90点) 3・4年生(85点) 5・6年生(80点)</p>	国語	8/12 学級	12/12 学級									
					算数	6/12 学級	12/12 学級									
学 力 向 上	【授業改善による学力定着】  教師が、その学年で身に付けるべき学力を確実に定着させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・45分間の授業で、基礎基本の力を身に付けるための授業改善【研究部】</li> <li>・児童の主体的な学びにつながる「問い」のある授業改善【研究部】</li> <li>・学び方の選択肢と自己決定のある授業改善【研究部】</li> <li>・教科書の文章を「読む」ことができる授業改善【研究部】</li> <li>・単元テストから思考力・判断力が80%以下の単元のアンストシートを繰り返し行うことでの学力定着【研究部】</li> <li>・教材文等のごとくに根拠を求める授業改善【研究部】</li> <li>・「聞く」ことを大切に、ねらいを達成するためのペアやグループによる学習のある授業改善【研究部】</li> <li>・通過率40%未満の児童への具体的な対応がある授業改善【研究部】</li> <li>・学習規律の徹底し、親和性のある学習集団づくり【研究部】</li> <li>【生徒指導・特別支援教育部】</li> <li>・ねらいを達成するために、ICT機器等を活用した授業改善【研究部】</li> </ul>	<p>児童質問紙よりアンケートによる調査 (あ)「国語の・算数の・理科の・社会の授業がよくわかる」教科ごとに総合評価する (い)「授業では、課題や問題について自分の考えをノートやプリントに書いている」 (う)「授業では、課題や問題について自分の考えを話している」 (え)「授業では、自分の考え方や解き方と比べながら友達や先生の話の聞いている」 (お)「授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりする」 (か)「ICT機器を使って、問題に挑戦したり、まとめたり、調べたりすることを進んでいる」 【評価時期】(1学期末・2学期末)</p>	<p>肯定的評価の割合</p>	(あ)	90.2%	90%									
					(い)	87.7%	90%									
豊 か な 心 と 親 和 性 の 高 い 集 団	【規範意識の育成】  教師が、児童に所属意識を持たせ、円滑な集団生活の基盤となる(規範意識・ルール・マナー等)を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活のきまり、学習規律チェック表に基づく積極的な生徒指導を日常的に実施【生徒指導・特別支援教育部】</li> <li>・生活や学習の場で自己決定する場の設定【生徒指導・特別支援教育部】【研究部】</li> </ul>	<p>OUアンケートの結果 【評価時期】(5月下旬・11月下旬)</p>	<p>1次支援(A)の割合が50%以上の学級数</p>	4/12 学級	12/12 学級										
					【共感的な人間関係づくり】  教師が児童に、他者とかかわり合う場面を与え、その中で、自己肯定感を高めさせるとともに、相手を大切にすることを態度を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての児童に、学校内(学校外も含めて)に学びの場がある取組【不登校等児童支援会議】</li> <li>・全ての児童が、困った時に学校の中に相談できる人や場がある取組【不登校等児童支援会議】</li> <li>・「聞く」ことを大切に授業改善【研究部】【生徒指導・特別支援教育部】</li> <li>・内面に迫る道徳科の授業改善【研究部】</li> <li>重点項目 B「思いやり」(B-6・B-7) C「よりよい学校生活・集団生活の充実」(C-14・C-15・C-16)</li> <li>・ねらいをもった児童同士の交流の場がある学級活動【生徒指導・特別支援教育部】</li> <li>・1校1貢献活動の実施【教務部】</li> </ul>	(あ)	93.7%	95%							
健 や か な 体	【生涯にわたって運動しようとする心身の育成につながる授業改善】 【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】  教師が、児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現しようとする心と体を育成させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく、運動量がある体育科の授業改善【健康安全部】</li> <li>・自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業改善【健康安全部】</li> <li>・児童同士が「見る」ことを大切に体育科の授業改善【健康安全部】</li> <li>・自己決定の場がある体育科の授業改善【研究部】【健康安全部】</li> <li>・感染症を予防するための取組の実施【健康安全部】</li> </ul>	<p>児童質問紙よりアンケートによる調査 「体育の授業は楽しい」 「感染症防止のためにマスク着用、手洗い、3密を防ぐことをしている」 【評価時期】(1学期末・2学期末)</p>	<p>肯定的評価の割合</p>	「体育の授業」98.9%	「感染症」95.1%										
					【生涯にわたって運動しようとする心身の育成につながる授業改善】 【生涯にわたって健康づくりをしよとする健康教育の充実】  教師が、児童に確かな目標を持たせ、生涯にわたって健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現しようとする心と体を育成させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく、運動量がある体育科の授業改善【健康安全部】</li> <li>・自分の目標に向かって挑戦することができる体育科等の授業改善【健康安全部】</li> <li>・児童同士が「見る」ことを大切に体育科の授業改善【健康安全部】</li> <li>・自己決定の場がある体育科の授業改善【研究部】【健康安全部】</li> <li>・感染症を予防するための取組の実施【健康安全部】</li> </ul>	(あ)	93.7%	95%							
働 き 方 改 革	教育課題に適切に対応する学校体制を再構築するとともに、学校行事及び総合的な学習の時間の内容を精選することを通して、児童に向き合う時間を確保するとともに、職員を健康を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的な学習の時間の内容を精選する。</li> <li>・各々が担当する行事を精選する。</li> <li>・関係機関・団体と連携する取組について、学校が担う業務を軽減する。</li> <li>・定時退校を実現する。</li> <li>・見直しを持った業務を行う。</li> </ul>	<p>〇市の方針「勤務時間上限の目安時間」上限の目安時間及び特例的な扱い」に記載されている内容を達成する。 上限目安時間・45時間/月を超えない。・360時間/年を超えない。 特例的な扱い・720時間/年を超えない。・45時間/月を超える月は、1年間に6月まで。・連続する複数月のそれぞれの期間について、1カ月当たりの平均が80時間を超えない。 【評価時期】(9月末・1月末)</p>	<p>勤務時間外の在 校時間 全教職 員年間360時間以 内の割合</p>	57%	100%										
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的な学習の時間の内容を精選する。</li> <li>・各々が担当する行事を精選する。</li> <li>・関係機関・団体と連携する取組について、学校が担う業務を軽減する。</li> <li>・定時退校を実現する。</li> <li>・見直しを持った業務を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的な学習の時間の内容を精選する。</li> <li>・各々が担当する行事を精選する。</li> <li>・関係機関・団体と連携する取組について、学校が担う業務を軽減する。</li> <li>・定時退校を実現する。</li> <li>・見直しを持った業務を行う。</li> </ul>	(あ)	93.7%	95%							

【自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

イ 自己評価は満足である。  
ロ 自己評価は満足でない。  
ハ 分からない。